

2017年

市民公募委員サロンだより

「市政と“みんなごと”でつながる2日間」その1
市政との楽しいつながり術～意外と届く自分の想い～

資料5

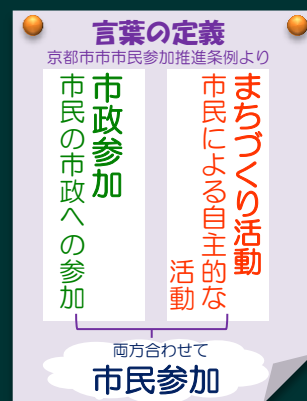
京都市では、「環境」「公契約」「スポーツ」「子ども」「食の安全」等、様々なテーマを扱う審議会等（外部有識者会議）において、約150人の市民公募委員の方にご就任いただいています。本市と「市民参加推進フォーラム」は、毎年、公募委員の皆様の交流を図るために

「公募委員サロン」を協働で開催しています。平成29年度のサロンは、公募委員だけではなく広く市民の皆さんにも参加を呼びかけ、市政参加の意義と楽しさを学び交流することを主な目的として開催いたしました。

※市民参加推進フォーラム：京都市の市民参加を推進する審議会

- 対象：京都市の審議会等の市民公募委員の皆様
市政参加に興味のある方（どなたでも）
- 日時：平成29年12月3日（日） 午後2時から午後4時30分まで
- 場所：御池創生館 地下1階
- タイムテーブル

- 14:00 開会、趣旨説明
- 14:10 ゲストトーク「市政参加ってなに？教えて 谷口先生」
- 14:30 谷口先生へのインタビュー、トークの振り返り
- 15:05 質問タイム
- 15:15 グループ交流（25分×2ラウンド）
- 16:15 全体共有
- 16:30 閉会



参加者

- ・市民公募委員 24名
- ・ゲスト 2名
- ・市政参加に興味のある市民 17名
- ・市民参加推進フォーラム委員 9名
- ・京都市職員（一般参加） 4名
- ・市民参加推進フォーラム事務局 6名

62名

ゲストトーク「市政参加ってなに？教えて 谷口先生」

谷口知弘氏（福知山公立大学教授）

・市政への参加の方法は…
「公募委員になる」「アンケートに答える」「パブリック・コメントを出す」「ワークショップに参加する」等、いろいろある。

・市政参加のコツは…「日々の暮らしの中で感じていることを話す」「物わかりよくならない」「市政のことを勉強しすぎない」

・行政だけでは実行が難しかったり気づきにくい課題がある。市民の参加によって新しい施策やアイデアが生まれる。

・審議会等の座長の多くは、会議運営の窓口ではないのに、議事進行を任されている。意見を適切に取りまとめて、よりよい議論とするために、事務局は、座長に頼る以外の進行方法を検討してみてもいいだろうか。

・日本は、アメリカのような移民国家とは違い、昔から住んできた土地の人が、地域の主な担い手となってきた。京都は、故郷を離れて住んでいる大学生も多いが、自らを「市民」と意識して、市政やまちづくり活動にも積極的に参加してもらいたいと願っている。（荒木委員）

・普段の生活のなかで、審議会の委員に応募をして入ったことを話しても、面倒なことをやってすごいね、という反応しか得られず、地域に貢献したいという想いが伝わらないし、広がらない。この雰囲気はどうしたらいいのかと気になっている。（太田委員）

【インタビュー】
市民参加推進フォーラム
公募委員



・市民と行政との協働の場面では、意見をまとめていく過程で面倒なことも起こる。でも、お互いに信頼したいという気持ちで根気よく関わると、本当に地域が必要としていたものが出来る実感がある。

・面白さを感じて参加してもらうための責任は、場を作る側にある。公募委員などで参加する人には、気負わず参加してほしい。

・まちを良くしようと意識していなくても、まちを良くする振る舞いがある。京都には地蔵盆や学区の運動会があるし、普段のなにげない挨拶なども、まちを良くするものだ。（谷口氏）

グループ交流・全体共有

①～③の好きなテーマの場所へ各自移動し、意見を交わす

テーマ①
どうやって始める？
市政とのつながり

テーマ②
市政とのつながりの
楽しさ、やりがい

テーマ③
市政とのつながりの
次のステップ

グループ交流
25分

席替え

グループ交流
25分

全体共有
15分



「市民参加」について、行政がいろんな取組をしていると、今日初めて知って驚いた。しかし、聞いていると、親や祖父母が消防団や体育振興会に関わっているのも、市民参加なんだと分かった。自分にも何かできるような気がする。

市民参加の制度ややり方がたくさん準備されているということが、一般に認識・評価されていない。行政や町内会などの既存の組織では、参加のデザインがもっと工夫されるとよい。

市政参加しようとしても、参加につながりにくい世代がある。私は大学生だが、大学生より下の世代にはあまり開かれていない。また、大学生で参加の活動をしていたとしても、就職すると時間が取れないことがほとんどで、自営業だったり、退職後でないと参加することが難しいという課題がある。

「市民参加」という言葉が硬い。区民運動会も町内会も餅つきも市民参加なのかもしれない。これまで意識してこず、結びついていない。でも、本当はみんなが何かしらやっているのかもという気がしてきた。

行政は、「いいね！」がもらえそうな共感できる企画を打出し、SNS等も活用してPRを頑張してほしい。

議論の性質によっては、市民参加がそぐわないケースもあるが、まちづくりや都市の計画などのベースになる議論こそ、まずは、学識経験者ではなく市民の声が必要なのではないか？ まちに暮らす一般市民の指摘が重要なこともある。かつ、学識経験者が居ることで、安心して会議に臨める。

問題意識を持っていても、どこに伝えればいいのか分からない。また、自分たちの意見は通らないのではないかと、何をしても意味がないのではないかと、不信感や諦めがある。解決に向けて、楽しく参加して意見を言う機会もあるということを知らないのは、もったいない。

普段自分の関わっている活動の中で、テーマが広がったり、別の分野や地域に広がったりして、世代を超えて繋いでいけるようなものが出来ることがあり、そのような経験が嬉しい。

地域での「まちづくり活動」は具体的に关わるイメージを持ちやすい。それが、「市政参加」となると、途端にハードルが上がる気がする。

行政には、会議を開催する前に、市民感覚と、行政や学識経験者の間にあるギャップをリサーチしてほしい。

「市民公募委員サロン」アンケート（回答数25）

ゲストトークの感想

- ・具体的で問題点も分かりやすく、勉強になった。
- ・市民参加は、面白く、時には面倒で、でも根気よく取り組むといいものができるということが分かった。
- ・なぜ参加するのか、参加してどうだったかという話が聞けた。
- ・つながりの大切さや、市政とは何なのかなど、知らないことを知ることができた。みんなで活動すると市が動くことを知った。

このイベントへの参加の動機・きっかけ

- ・大学の講義で市政参加について関心を持った。
- ・市長に伝えたいことがあったが、その方法があるのか知りたかった。
- ・別のイベントへの参加から、市の課題解決への参加に興味を持った。
- ・いろんな人の、活動に対する積極的な声を聴きたかった。
- ・他の審議会等の方がどのように考えているかを知りたかった。

交流会の感想

- ・様々な立場の方の意見を聞き、市政への壁がなくなった。
- ・市政参加のミスマッチの話や成功事例を聞くことができた。
- ・人数が多すぎるグループもあり、話しにくい時があった。
- ・京都市の事を考えている人が多くいることを知った。
- ・自分の意見を述べたり、他者の意見を聞くいい機会だった。
- ・市民参加について知り、他の世代の方とも交流できた。

このイベントを通じた心境の変化や抱負

- ・市政参加への関心を持つことが大切だと感じた。
- ・公募委員になってみたい。
- ・これから開催される会議では、ひとこと発言しようと思った。
- ・参加しやすい場づくりの重要性に改めて気づいた。
- ・今後も一市民として発言していきたい。
- ・できることから市民参加をしていきたい。
- ・これからさらに京都のためにがんばりたい。